

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東京工科大学
設置者名	学校法人 片柳学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
応用生物学部	応用生物学科	夜・通信	2	0	32	34	13	
コンピュータサイエンス学部	コンピュータサイエンス学科	夜・通信		0	12	14	13	
メディア学部	メディア学科	夜・通信		0	16	18	13	
工学部	機械工学科	夜・通信	2	12	4	18	13	
	電気電子工学科	夜・通信		12	8	22	13	
	応用化学科	夜・通信		12	10	24	13	
医療保健学部	看護学科	夜・通信	0	13	90	103	13	
	臨床工学科	夜・通信		10	34	44	13	
	臨床検査学科	夜・通信		4	18	22	13	
	理学療法学科	夜・通信		0	17	17	13	
	作業療法学科	夜・通信		0	42	42	14	
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	夜・通信		14	64	78	13	
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	夜・通信		15	55	70	13	
リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻	夜・通信	8	51	59	13			

デザイン学部	デザイン学部	夜・通信	0	0	54	54	14	
(備考) ・医療保健学部リハビリテーション学科は令和3年度新設学科であり、在學生は1～3年生である。医療保健学部理学療法学科、作業療法学科は、令和3年4月に学生募集を停止している。 ・医療保健学部看護学科は、1～2年と3～4年でカリキュラムが異なる。 ・医療保健学部臨床検査学科は、1～2年と3～4年でカリキュラムが異なる。 ・医療保健学部臨床工学科は、1年と2～4年でカリキュラムが異なる。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

東京工科大学 HP 情報公開ページ【3】修学上の情報等 3. [4] 「実務経験のある教員等による授業科目の一覧」にて https://www.teu.ac.jp/koukai/index.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京工科大学
設置者名	学校法人 片柳学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人片柳学園HP 情報公開ページ「役員・評議員」にて
<https://www.katayanagi.ac.jp/kokai/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社代表取締役	2019. 4. 1～ 2024. 7. 11	関係業界知識の教育への反映, 企業経営者としての経験
非常勤	元地方自治体首長	2012. 12. 1～ 2026. 4. 27	産官学連携
非常勤	企業グループ会長	2020. 4. 1～ 2024. 7. 11	企業経営者としての経験
非常勤	建築設計会社代表	2021. 4. 1～ 2024. 7. 11	関係業界知識の教育への反映, 企業経営者としての経験
非常勤	創業株式会社顧問	2021. 4. 1～ 2026. 8. 1	同窓会会長・企業経営者としての経験
(備考) 任期は最初の就任日から任期満了日を記載している。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京工科大学
設置者名	学校法人 片柳学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>本学では、全ての科目においてシラバスを作成し、学生に授業の方法、内容、到達目標、成績評価の基準等を示している。これらのシラバスは、学内外問わず、ホームページから閲覧することができる。</p> <p>毎年、教務部長が委員長である全学教育委員会においてシラバス作成に関するガイドラインの内容を検討している。シラバス作成依頼時には、次年度のシラバスを作成する全教員に対し、「シラバス作成にあたってのお願い」という文書を送付し、これに沿って全教員はシラバスを作成している。また、全てのシラバスについて、ガイドラインに沿った内容になっているか各学部、教養学環の教務委員長を中心に第三者による確認作業を行い、必要に応じて書き直しをさせている。</p> <p>シラバスは、公開前年の12月に作成を開始し、上記の第三者による確認を経て、各学部の新年度ガイダンスが始まる前の3月下旬にウェブを通じて学内外に公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.teu.ac.jp/gakubu/syllabus/index.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>成績評価については、試験の結果および平素の学修状況を総合して判定することとしている。各授業科目のシラバスに成績評価方法・基準という欄を設け、試験やレポートなどの評価要素をどのような比率で総合成績に反映するか学生に理解できるように記述している。このあらかじめ学生に示した基準に基づき、厳格かつ適正に成績評価、単位認定を実施している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、学生が自分の学業成績の達成度を客観的に評価できるように GPA を適用している。GPA とは、履修した各科目の評価ポイントに、単位数を乗じた数を履修登録総単位数で除した値であり、この GPA 値は履修登録単位の上限の緩和や成績順位・成績優秀者表彰の選考などに利用している。

算出方法は以下のとおりである。

GPA= (各科目の評価ポイント×単位数) の合計／履修登録総単位数

評価ポイントについては、S=4、A=3、B=2、C=1、D・X=0 としている。

なお、本学では、履修登録した科目については、単位修得不可となって再履修する科目についてもすべて GPA の計算式に組み込んでいる。そのため、不合格の評価となった科目も含め、GPA の値は計算される。また、成績の分布状況については、各学部・各学期のすべての科目について評定の分布を一覧表にまとめ、教授会やアゴラ（教員集会）等で、ガイドラインから過度な偏りが生じていないか等、検証を行っている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

https://www.teu.ac.jp/ap_page/koukai/gakusyuseika_2021_3-4_1.pdf

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、以下のとおり大学全体で定める共通のディプロマポリシーを定めている。</p> <p>各学部・学科に所定の期間在学し、各学部・学科の教育理念、教育目標に沿って設定した教養教育科目、基礎教育科目、専門基礎共通科目、専門科目を履修して基準となる単位数を修得し、学士の卒業試験に合格することが学位授与の要件である。修得すべき授業科目には、講義科目のほか、各学部・学科の定める演習、実習、実験、臨地・臨床実習、フィールドワークや卒業研究・課題の作成等が含まれる。</p> <p>全学部共通で行われる教養科目と各学部・学科の特性に応じて編成された実学的な専門科目をともに修得しており、コミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につけているかどうか、学士の卒業試験に合格する基準となる。</p> <p>さらに、大学共通のディプロマポリシーに専門的能力を具体化した形で、学部ごとにディプロマポリシーを定めている。</p> <p>このディプロマポリシーを含む各ポリシーは、大学ホームページや学生便覧などを通じて広く公表している。</p> <p>各科目とディプロマポリシーに定めたラーニングアウトカムズの対応関係を示したカリキュラムマップを作成し、科目ごとの到達レベルをシラバスで記述している。また1年から2年（医療保健学部は2年から3年）の進級要件および卒業研究/卒業課題の着手要件を定め、学修状況に応じた科目履修を進めるとともに学修が困難な学生の早期発見に努めている。卒業認定基準は所定の科目履修、単位修得によって認定しており、各科目で定めたラーニングアウトカムズとの対応の総体でディプロマポリシーを保証している。進級要件、卒業要件は、学生便覧に記載し、学生及び教員に配布している。カリキュラムマップは、1年生に配布する資料や学内ホームページに掲載している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.teu.ac.jp/gaiyou/policy/index.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東京工科大学
設置者名	学校法人 片柳学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.katayanagi.ac.jp/kokai/
収支計算書又は損益計算書	https://www.katayanagi.ac.jp/kokai/
財産目録	https://www.katayanagi.ac.jp/kokai/
事業報告書	https://www.katayanagi.ac.jp/kokai/
監事による監査報告(書)	https://www.katayanagi.ac.jp/kokai/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称: アクションプラン Evolution2030	対象年度: 2030年度)
公表方法: https://www.teu.ac.jp/actionplan2030/index.html	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.teu.ac.jp/jhyouka/index.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.teu.ac.jp/gaiyou/009923.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 応用生物学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.teu.ac.jp/ap_page/koukai/johokokai_2022_2-1.pdf) (概要) 応用生物学部、応用生物学科は、生物の高効率・省エネルギーシステムに学び、これを工学的に応用することにより、社会・産業に役立つ有為な人材を養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.teu.ac.jp/gakubu/bionics/policy/unev_bs.html) (概要) 応用生物学部に所定の期間在学し、生命科学を基盤とした理学、工学的な知識と実践能力を身につけるために設定した教養教育科目、専門基礎教育科目、専門教育科目を履修して、124単位以上を修得し、学士の卒業試験に合格することが学位授与の要件である。修得すべき授業科目には、講義科目のほか、応用生物学部の定める演習、講義付き実験、専門実験や卒業論文の作成等が含まれる。 全学部共通で行われる教養科目と応用生物学部の特性に応じて編成された実学的な専門科目をともに修得しており、コミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につけているかどうか、学士の卒業試験に合格する基準となる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.teu.ac.jp/gakubu/bionics/policy/unev_bs.html) (概要) 本学の基本理念である「生活の質の向上、技術の発展と持続可能な社会に貢献する人材を育成する」ため、応用生物学部において国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性と持続可能な社会の構築に貢献する生命科学とバイオテクノロジーに関する高度な専門能力、コミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を兼ね備えた人材を育成することを目的に、次のような方針に基づいた教育課程表(カリキュラム)を編成し、実施する。 1. 教養教育科目 教養教育科目は国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性と創造性を修得するために、 a) 人文・社会系科目群、b) 外国語系科目群、c) 情報(コンピュータ)・数理・自然科学系科目群、d) 人間形成科目群(社会人基礎・ウェルネス)の4科目群で構成する。 2. 専門科目 a. 専門基礎、共通科目群 応用生物学部における専門分野の基礎知識や基礎技術を必修科目、選択必修科目、選択科目として配置し、基礎的かつ実践的な専門分野を学ぶ基盤を身につける。 b. 専門科目群 応用生物学部における専門分野の知識である生命科学やバイオテクノロジーを学び、これらの知識や技術を総合的に活用して、新しい価値の創造ができる能力を養う。 応用生物学部の特徴ある生命科学とバイオテクノロジー、環境、食品、化粧品に関する実験を選択必修科目として配置し、実践的な応用力を身につける。 また、卒業課題の科目を必修科目として配置し、4年間の学部教育の集大成として、修得した生命科学やバイオテクノロジーの知識や技術を実学的に活用しながら、最終

<p>的にはコミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につける。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/bionics/policy/unev_bs.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>応用生物学部は下記のような志を持った学生を求める。</p> <p>自然科学、特に生命科学やバイオテクノロジーの学修と研究に強い意欲を持って挑み、自己成長して自分の夢の実現をめざす人。国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性を育み、医療、環境、食品、化粧品などの産業社会で自立して活躍し、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人を求める。</p>

<p>学部等名 コンピュータサイエンス学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.teu.ac.jp/ap_page/koukai/johokokai_2022_2-1.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>コンピュータサイエンス学部、コンピュータサイエンス学科は、コンピュータ、ネットワーク、システム等における要素技術を含む情報通信応用技術の教育研究を通じて、社会に貢献することのできる有為な人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/cs/policy/unev_cs.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>コンピュータサイエンス学部にて所定の期間在学し、コンピュータサイエンス学部の教育理念である確固たる基礎力、発展性ある実践力、さらには高い倫理観およびビジネスマインドを備え持つ活力ある ICT 人材の育成に沿って設定した教養教育科目、専門基礎教育科目、専門教育科目を履修して、124単位以上を修得し、学士の卒業試験に合格することが学位授与の要件である。修得すべき授業科目には、講義科目のほか、コンピュータサイエンス学部の定める演習、実験や卒業論文の作成等が含まれる。</p> <p>全学部共通で行われる教養科目とコンピュータサイエンス学部の特性に応じて編成された実学的な専門科目をともに修得しており、コミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につけているかどうか、学士の卒業試験に合格する基準となる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/cs/policy/unev_cs.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学の基本理念である「生活の質の向上、技術の発展と持続可能な社会に貢献する人材を育成する」ため、コンピュータサイエンス学部において国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性と持続可能な社会の構築に貢献する先進的な ICT 分野の専門知識と技術（スキル）、コミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を兼ね備えた人材を育成することを目的に、次のような方針に基づいた教育課程表（カリキュラム）を編成し、実施する。</p> <p>1. 教養教育科目 教養教育科目は国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性と創造性を修得するために、 a) 人文・社会系科目群、b) 外国語系科目群、c) 情報（コンピュータ）・数理・自然科学系科目群、d) 人間形成科目群（社会人基礎・ウェルネス）の4科目群で構成する。</p>

<p>2. 専門科目</p> <p>a. 専門基礎、共通科目群 コンピュータサイエンス学部における専門分野の基礎知識や基礎技術を必修科目、選択必修科目、選択科目として配置し、基礎的かつ実践的な専門分野を学ぶ基盤を身につける。</p> <p>b. 専門科目群 コンピュータサイエンス学部における専門分野の知識、すなわちプログラミング、各種アプリケーション開発に関する先進的技術（スキル）を学び、ICT分野の基盤となる知識をコア講義科目群で学修する。コンピュータサイエンス学部の特徴ある演習・実験を必修科目や選択必修科目として配置し、先進的なICT分野の実践的な応用力を身につける。 また、卒業課題やその準備となる創成課題を必修科目として配置し、4年間の学部教育の集大成として、修得した知識や技術を実学的に活用しながら、最終的にはコミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につける。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/cs/policy/unev_cs.html) (概要)</p> <p>コンピュータサイエンス学部は下記のような志を持った学生を求める。</p> <p>先進的 ICT 分野の学修と研究に強い意欲を持って挑み、自己成長して自分の夢の実現をめざす人。国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性を育み、自立した ICT 技術者として新たな社会システムを創造し、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人を求める。</p>
<p>学部等名 メディア学部</p> <p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.teu.ac.jp/ap_page/koukai/johokokai_2022_2-1.pdf) (概要)</p> <p>メディア学部、メディア学科は、人間社会のあらゆる局面において活動するメディアに関して、メディア表現、メディア環境、メディア技術などの教育を通じて、多様で発展的なメディア分野で活躍することのできる創造性豊かな人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/media/policy/unev_ms.html) (概要)</p> <p>メディア学部に所定の期間在学し、メディア学部の教育理念・教育目標である生活や社会を豊かにする情報・コンテンツの創出及びそれらを人から人に正しく円滑に伝達するデジタル技術の創造・活用に貢献できる人材の育成に沿って設定した教養教育科目、専門基礎教育科目、専門教育科目を履修して、124単位以上を修得し、学士の卒業試験に合格することが学位授与の要件である。修得すべき授業科目には、講義科目のほか、メディア学部の定める演習や卒業論文の作成等が含まれる。 全学部共通で行われる教養科目とメディア学部の特性に応じて編成された実学的な専門科目をともに修得しており、コミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につけているかどうか、学士の卒業試験に合格する基準となる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/media/policy/unev_ms.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>本学の基本理念である「生活の質の向上、技術の発展と持続可能な社会に貢献する人材を育成する」ため、メディア学部において国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性と持続可能な社会の構築に貢献する高度なメディアの活用専門能力、コミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を兼ね備えた人材を育成することを目的に、次のような方針に基づいた教育課程表（カリキュラム）を編成し、実施する。</p> <p>1. 教養教育科目 教養教育科目は国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性と創造性を修得するために、 a) 人文・社会系科目群、b) 外国語系科目群、c) 情報（コンピュータ）・数理・自然科学系科目群、d) 人間形成科目群（社会人基礎・ウェルネス）の4科目群で構成する。</p> <p>2. 専門科目 a. 専門基礎、共通科目群 メディア学部における専門分野の基礎知識や基礎技術を必修科目、選択必修科目、選択科目として配置し、基礎的かつ実践的な専門分野を学ぶ基盤を身につける。</p> <p>b. 専門科目群 メディア学部における専門分野の知識、メディアテクノロジーの原理、コンテンツ制作手法、メディア社会への応用手法を学び、これらの知識や技術を総合的に活用して、新しい価値の創造ができる能力を養う。 メディア学部の特徴ある基礎演習・専門演習を必修科目として配置し、実践的な応用力を身につける。 また、卒業研究やその準備となる創成課題の科目を必修科目として配置し、4年間の学部教育の集大成として、修得した知識や技術を実学的に活用しながら、最終的にはコミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につける。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/media/policy/unev_ms.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>メディア学部は下記のような志を持った学生を求める。</p> <p>メディア学の学修と研究に強い意欲を持って挑み、自己成長して自分の夢の実現をめざす人。国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性を育み、メディアを活用した新たな価値やサービスを創造し、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人を求める。</p>
<p>学部等名 工学部</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：https://www.teu.ac.jp/ap_page/koukai/johokokai_2022_2-1.pdf）</p>
<p>(概要)</p> <p>工学部は、生活の質の向上と持続可能な社会を実現するため、豊かな人間性と自立性とともに、工学分野の専門知識を身につけた、科学技術の発展に貢献できる実践的かつ国際的人材を養成する。</p> <p>工学部、機械工学科は、サステイナブル工学の技術と機械、電気電子、システム等の教育研究をつうじて、生活の質の向上と持続可能な社会の構築に貢献できる有為な人材を養成する。</p>

工学部、電気電子工学科は、サステイナブル工学の技術と電気、電子、情報通信技術等の教育研究をつうじて、生活の質の向上と持続可能な社会の構築に貢献できる有為な人材を養成する。

工学部、応用化学科はサステイナブル工学の技術と材料化学、化学プロセス、化学システム等の教育研究をつうじて、生活の質の向上と持続可能な社会の構築に貢献できる有為な人材を養成する。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/eng/policy/unev_es.html)

(概要)

工学部に所定の期間在学し、工学部の専門分野における知識と技術を身につけ、サステイナブル工学の実践により持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成することを教育目標として設定した教養教育科目、専門教育科目を履修して、128単位以上を修得し、学士の卒業試験に合格することが学位授与の要件である。修得すべき授業科目には、講義科目のほか、工学部の定めるサステイナブル工学演習・実習、コーオプ演習・実習、工学英語、工学実験、地域連携課題や卒業論文の作成等が含まれる。

全学部共通で行われる教養科目と工学部の特性に応じて編成された実学的な専門科目とともに修得しており、コミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につけているかどうか、学士の卒業試験に合格する基準となる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/eng/policy/unev_es.html)

(概要)

本学の基本理念である「生活の質の向上、技術の発展と持続可能な社会に貢献する人材を育成する」ため、工学部において国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性と持続可能な社会の構築に貢献するサステイナブル工学の実践力、コミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を兼ね備えた人材を育成することを目的に、次のような方針に基づいた教育課程表（カリキュラム）を編成し、実施する。

1. 教養教育科目

教養教育科目は国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性と創造性を修得するために、
a) 人文・社会系科目群、b) 外国語系科目群、c) 情報（コンピュータ）・数理・自然科学系科目群、d) 人間形成科目群（社会人基礎・ウェルネス）の4科目群で構成する。

2. 専門科目

a. 専門基礎、共通科目群

工学部における専門分野の基礎知識や基礎技術を必修科目、選択必修科目、選択科目として配置し、基礎的かつ実践的な専門分野を学ぶ基盤を身につける。

b. 専門科目群

工学部における専門分野の知識、サステイナブル工学を学び、これらの知識や技術を総合的に活用して、新しい価値の創造ができる能力を養う。

工学部の特徴あるサステイナブル工学科目、コーオプ教育科目、工学英語科目を必修科目として配置し、実践的な応用力を身につける。

また、卒業課題を必修科目として配置し、4年間の学部教育の集大成として、修得した知識や技術を実学的に活用しながら、最終的にはコミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につける。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/eng/policy/unev_es.html)

(概要)

工学部は下記のような志を持った学生を求める。

持続可能な社会を構築する工学（サステイナブル工学）の学修と研究に強い意欲を持って挑み、自己成長して自分の夢の実現をめざす人。国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性を育み、自立して主体的に技術社会の改革に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人を求める。

学部等名 医療保健学部

教育研究上の目的

(公表方法：https://www.teu.ac.jp/ap_page/koukai/johokokai_2022_2-1.pdf)

(概要)

医療保健学部は、人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を整え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、人間の健康と福祉の向上に貢献することのできる有為な人材を養成する。

医療保健学部、看護学科は、看護学及び保健学を学び、医療、産業、行政、地域の分野で看護、保健活動に従事する人間性豊かで自立した有為な人材を養成する。

医療保健学部、臨床工学科は、医用工学及び医用機器の基礎および臨床応用を学び、医療現場における機器の管理、他職種への指導を通じて高度な医療行為に参画する有為な人材を養成する。

医療保健学部、理学療法学科は、理学療法を学び、障害を有する者のリハビリテーションを全人的立場から実施し、有効な治療を工夫して行う有為な人材を養成する。(令和3年4月から学生募集停止)

医療保健学部、作業療法学科は、作業療法を学び、乳幼児期から老年期までの生活障害を改善し、生活の質(QOL)と意欲の向上に資する技術者として活動する有為な人材を養成する。(令和3年4月から学生募集停止)

医療保健学部、リハビリテーション学科は、学理に基づいたリハビリテーションの本質を探究し、生活の質の向上をとおして、全人的な支援ができる有為な人材を養成する。

医療保健学部、リハビリテーション学科、理学療法専攻は、理学療法を学び、障害を有する者のリハビリテーションを全人的立場から実施し、有効な治療を工夫して行う有為な人材を養成する。

医療保健学部、リハビリテーション学科、作業療法専攻は、作業療法を学び、乳幼児期から老年期までの生活障害を改善し、生活の質(QOL)と意欲の向上に資する技術者として活動する有為な人材を養成する。

医療保健学部、リハビリテーション学科、言語聴覚専攻は、言語聴覚を学び、音声・言語・聴覚・嚥下機能の障害に対し、検査・評価をとおして、有効な指導、支援を行う有為な人材を養成する。

医療保健学部、臨床検査学科は、日進月歩で進む医療を支える臨床検査の最新知識を学び、正しい診断情報を提供する臨床検査のエキスパートとなる有為な人材を育成する。

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>医療保健学部 に所定の期間在学し、自立した医療専門職の基礎を身につけ、人類愛と国際協力の学習により奉仕精神を育てるために設定した基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目を履修して、128単位以上を修得し、学士の卒業試験に合格することが学位授与の要件である。修得すべき授業科目には、講義科目のほか、医療保健学部の定める演習、臨地・臨床実習や卒業論文の作成等が含まれる。</p> <p>全学部共通で行われる教養科目と医療保健学部の特性に応じて編成された実学的な専門科目をともに修得しており、コミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につけているかどうか、学士の卒業試験に合格する基準となる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学の基本理念である「生活の質の向上、技術の発展と持続可能な社会に貢献する人材を育成する」ため、医療保健学部において国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性と持続可能な社会の構築に貢献する全人的な医療、保健の専門能力、コミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を兼ね備えた人材を育成することを目的に、次のような方針に基づいた教育課程表（カリキュラム）を編成し、実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎教育科目 基礎教育科目は国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性と創造性を修得するために、 a) 人文・社会系科目群、b) 外国語系科目群、c) 情報（コンピュータ）・数理・自然科学系科目群、d) 人間形成科目群（社会人基礎・ウェルネス）の4科目群で構成する。 2. 専門科目 <ol style="list-style-type: none"> a. 専門基礎 医療保健学部における専門分野の基礎知識や基礎技術を必修科目、選択科目として配置し、基礎的かつ実践的な専門分野を学ぶ基盤を身につける。 b. 専門科目群 医療保健学部における専門分野の知識、先進医療機器の原理、使用方法およびそれによって得られる所見、考察の記述法を学び、これらの知識や技術を総合的に活用して、新しい価値の創造ができる能力を養う。 医療保健学部の特徴ある演習、臨地・臨床実習を必修科目として配置し、実践的な応用力を身につける。 また、卒業研究の科目を必修科目として配置し、4年間の学部教育の集大成として、修得した知識や技術を実学的に活用しながら、最終的にはコミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につける。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/medical/policy/unev_hs.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>医療保健学部は下記のような志を持った学生を求める。</p> <p>複雑化、高度化が進む医療の知識・技術の学修と研究に強い意欲を持って挑み、自己成長して自分の夢の実現をめざす人。国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性を育み、自立・博愛・向上心を備え、社会人として主体的に生涯学習を続けていける意志を持ち、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人を求める。</p>

学部等名 デザイン学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.teu.ac.jp/ap_page/koukai/johokokai_2022_2-1.pdf)
(概要) デザイン学部、デザイン学科は、広く芸術に関する理論と実践を教授する。加えて、「描く」「作る」等を中心とした感性教育とこれからのデザイン分野に必要な最先端スキルを教育することによって、感性豊かで、最先端のスキルを駆使し広範なデザイン分野で活躍できる有為な人材を養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.teu.ac.jp/gakubu/design/policy/unev_ds.html)
(概要) デザイン学部にも所定の期間在学し、デザイン学部の生活の質を高めるためのデザインの考え方やその実現のための感性とスキルを学び、チーム力、集中力、提案力、実現力、取材力、発想力の六つの力を身につけるという教育目標に沿って設定した教養教育科目、専門教育科目を履修して、124単位以上を修得し、学士の卒業試験に合格することが学位授与の要件である。修得すべき授業科目には、講義科目のほか、デザイン学部の定める感性演習、スキル演習、専門演習や卒業研究としての制作等が含まれる。 全学部共通で行われる教養科目とデザイン学部の特性に応じて編成された実学的な専門科目をともに修得しており、意図や目的の明確なデザインの制作、コミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につけているかどうか、学士の卒業試験に合格する基準となる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.teu.ac.jp/gakubu/design/policy/unev_ds.html)
(概要) 本学の基本理念である「生活の質の向上、技術の発展と持続可能な社会に貢献する人材を育成する」ため、デザイン学部において国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性と持続可能な社会の構築に貢献するデザインマインドとデザインスキル、コミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を兼ね備えた人材を育成することを目的に、次のような方針に基づいた教育課程表(カリキュラム)を編成し、実施する。 1. 教養教育科目 教養教育科目は国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性と創造性を修得するために、 a) 人文・社会系科目群、b) 外国語系科目群、c) 情報(コンピュータ)・数理・自然科学系科目群、d) 人間形成科目群(社会人基礎・ウェルネス)の4科目群で構成する。 2. 専門科目 a. 共通科目群 デザイン学部における専門分野の基礎知識や基礎技術を必修科目、選択必修科目、選択科目として配置し、基礎的かつ実践的な専門分野を学ぶ基盤を身につける。 b. 専門科目群 デザイン学部における専門分野の知識、デザインマインドとデザインスキルを学び、これらの知識や技術を総合的に活用して、新しい価値の創造ができる能力を養う。 デザイン学部の特徴ある感性演習、スキル演習、専門演習などを必修科目や選択必修科目として配置し、実践的な応用力を身につける。 また、専門研究や卒業研究の科目を必修科目として配置し、4年間の学部教育の集大成として、修得した知識や技術を実学的に活用しながら、最終的にはコミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につける。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.teu.ac.jp/gakubu/design/policy/unev_ds.html)

(概要)

デザイン学部は下記のような志を持った学生を求める。

デザインの感性と創造力・企画力の学修と研究に強い意欲を持って挑み、自己成長して自分の夢の実現をめざす人。国際的な教養と豊かな人間性、高い倫理性、創造性を育み、実社会で役立つデザインのマインドとスキルを身につけ、持続可能な社会の実現に貢献する意欲がある人を求める。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.teu.ac.jp/koukai/index.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
応用生物学部	—	21人	3人	2人	7人	3人	36人
コンピュータサイエンス学部	—	15人	5人	9人	3人	4人	36人
メディア学部	—	13人	9人	10人	4人	2人	38人
工学部	—	19人	6人	5人	4人	3人	37人
医療保健学部	—	29人	15人	15人	21人	8人	88人
デザイン学部	—	6人	8人	7人	3人	0人	24人
教養学環	—	12人	2人	4人	0人	0人	18人
片柳学園研究所	—	7人	0人	1人	0人	0人	8人
その他	—	2人	0人	1人	0人	0人	3人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		183人					183人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.teu.ac.jp/koukai/19430/2-1/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
応用生物学部	260人	291人	111.9%	1103人	1137人	103.1%	24人	10人
コンピュータサイエンス学部	290人	313人	107.9%	1238人	1373人	110.9%	30人	32人
メディア学部	290人	295人	101.7%	1235人	1359人	110.0%	29人	33人
工学部	280人	316人	112.9%	1159人	1252人	108.0%	13人	13人
医療保健学部	400人	436人	109.0%	1600人	1633人	102.1%	0人	0人
デザイン学部	200人	211人	105.5%	800人	851人	106.4%	0人	6人
合計	1720人	1862人	108.3%	7135人	7605人	106.6%	96人	94人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
応用生物学部	258人 (100%)	42人 (16.3%)	203人 (78.7%)	13人 (5.0%)
コンピュータ サイエンス学部	309人 (100%)	36人 (11.7%)	258人 (83.5%)	15人 (4.9%)
メディア学部	307人 (100%)	24人 (7.8%)	249人 (81.1%)	34人 (11.1%)
工学部	270人 (100%)	50人 (18.5%)	211人 (78.1%)	9人 (3.3%)
医療保健学部	373人 (100%)	10人 (2.7%)	351人 (94.1%)	12人 (3.2%)
デザイン学部	195人 (100%)	6人 (3.1%)	169人 (86.7%)	20人 (10.3%)
合計	1712人 (100%)	168人 (9.8%)	1441人 (84.2%)	103人 (6.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
応用生物学部 応用生物学科	286人 (100%)	243人 (85.0%)	21人 (7.3%)	22人 (7.7%)	0人 (0.0%)
コンピュータ サイエンス学部 コンピュータ サイエンス学科	316人 (100%)	248人 (78.5%)	42人 (13.3%)	26人 (8.2%)	0人 (0.0%)
メディア学部 メディア学科	311人 (100%)	265人 (85.2%)	34人 (10.9%)	12人 (3.9%)	0人 (0.0%)
工学部 機械工学科	109人 (100%)	84人 (77.1%)	15人 (13.8%)	10人 (9.2%)	0人 (0.0%)
工学部 電気電子工学科	106人 (100%)	86人 (81.1%)	12人 (11.3%)	8人 (7.5%)	0人 (0.0%)
工学部 応用化学科	85人 (100%)	68人 (80.0%)	8人 (9.4%)	9人 (10.6%)	0人 (0.0%)
医療保健学部 看護学科	131人 (100%)	101人 (77.1%)	19人 (14.5%)	11人 (8.4%)	0人 (0.0%)
医療保健学部 臨床工学科	76人 (100%)	63人 (82.9%)	6人 (7.9%)	7人 (9.2%)	0人 (0.0%)
医療保健学部 理学療法学科	85人 (100%)	79人 (92.9%)	1人 (1.2%)	5人 (5.9%)	0人 (0.0%)
医療保健学部 作業療法学科	37人 (100%)	30人 (81.1%)	3人 (8.1%)	4人 (10.8%)	0人 (0.0%)
医療保健学部 臨床検査学科	80人 (100%)	60人 (75.0%)	10人 (13.0%)	10人 (13.0%)	0人 (0.0%)
デザイン学部 デザイン学科	214人 (100%)	185人 (86.4%)	9人 (4.2%)	20人 (9.3%)	0人 (0.0%)
合計	1836人 (100%)	1512人 (82.4%)	180人 (9.8%)	144人 (7.8%)	0人 (0.0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学では、全ての科目においてシラバスを作成し、学生に授業の方法、内容、到達目標、成績評価の基準等を示している。これらのシラバスは、学内外問わず、ホームページから閲覧することができる。</p> <p>毎年、教務部長が委員長である全学教育委員会においてシラバス作成に関するガイドラインの内容を検討している。シラバス作成依頼時には、次年度のシラバスを作成する全教員に対し、「シラバス作成にあたってのお願い」という文書を送付し、これに沿って全教員はシラバスを作成している。また、全てのシラバスについて、ガイドラインに沿った内容になっているか各学部、教養学環の教務委員長を中心に第三者による確認作業を行い、必要に応じて書き直しをさせている。</p> <p>シラバスは、公開前年の12月に作成を開始し、上記の第三者による確認を経て、各学部の新年度ガイダンスが始まる前の3月下旬にウェブを通じて学内外に公開している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
成績評価については、試験の結果および平素の学修状況を総合して判定することとしている。各授業科目のシラバスに成績評価方法・基準という欄を設け、レポートや試験などの評価要素をどのような比率で総合成績に反映するか学生に理解できるように記述している。このあらかじめ学生に示した基準に基づき、厳格かつ適正に成績評価、単位認定を実施している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
応用生物学部	応用生物学科	124 単位	有	半期 24 単位
コンピュータサイエンス学部	コンピュータサイエンス学科	124 単位	有	半期 24 単位
メディア学部	メディア学科	124 単位	有	半期 24 単位
工学部	機械工学科	128 単位	有	半期 24 単位
	電気電子工学科	128 単位	有	半期 24 単位
	応用化学科	128 単位	有	半期 24 単位
医療保健学部	看護学科	128 単位	有	年間 48 単位
	臨床工学科	128 単位	有	年間 48 単位
	理学療法学科	128 単位	有	年間 48 単位
	作業療法学科	128 単位	有	年間 48 単位
	臨床検査学科	128 単位	有	年間 48 単位
	リハビリテーション学科	128 単位	有	年間 48 単位
デザイン学部	デザイン学科	124 単位	有	半期 24 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.teu.ac.jp/koukai/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
応用生物学部	応用生物学科	1,376,000円	250,000円	0円	
コンピュータ サイエンス学部	コンピュータ サイエンス学科	1,326,000円	250,000円	0円	
メディア学部	メディア学科	1,326,000円	250,000円	0円	
工学部	機械工学科	1,376,000円	250,000円	0円	
	電気電子学科				
	応用化学科				
医療保健学部	看護学科	1,650,000円	450,000円	0円	
	臨床工学科	1,560,000円	340,000円	0円	
	リハビリテーショ ン学科				
	臨床検査学科				
デザイン学部	デザイン学科	1,560,000円	250,000円	0円	

※上記授業料は入学1年目の学費である。なお、2年目以降の授業料は以下のとおりである。

学部名	学科名	授業料 (年間)		
		2年目	3年目	4年目
応用生物学部	応用生物学科	1,406,000円	1,442,000円	1,478,000円
コンピュータ サイエンス学部	コンピュータ サイエンス学科	1,356,000円	1,392,000円	1,428,000円
メディア学部	メディア学科	1,356,000円	1,392,000円	1,428,000円
工学部	機械工学科	1,406,000円	1,442,000円	1,478,000円
	電気電子工学科			
	応用化学科			
医療保健学部	看護学科	1,680,000円	1,716,000円	1,750,000円
	臨床工学科	1,590,000円	1,626,000円	1,662,000円
	理学療法学科			
	作業療法学科			
	リハビリテーショ ン学科			
臨床検査学科				
デザイン学部	デザイン学科	1,590,000円	1,620,000円	1,650,000円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 八王子キャンパス及び蒲田キャンパスには学修支援センターを設置している。ここでは、基本的科目・専門基礎科目の指導歴を持つ教員が常駐し、専門科目に入る前の基礎的な科目でわからない点などに対し、個別指導でアドバイスを受けることを可能としている。また、単に補習的に利用するだけでなく、興味のある特定科目の能力をさらに強化したい人の学習にも対応できるようにしている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) 本学では、医療従事者という目標が明確である医療保健学部や学外の就業体験を行うことを必修としている工学部を除く4学部で正課の授業としてキャリアデザインという科目を設置し、学生の進路選択に資する授業を行っている。また、働くことや企業、職種を体験的に理解するための「インターンシップ」、地域社会の実情や社会課題に関する講義やディスカッションと実際の地域での活動の体験を行う「サービスラーニング」を単位化して実施している。 この他に、正課外として進路・就職・進学に関するガイダンスや、学内企業セミナーを開催し、学生の進路選択を支援している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 本学では、相談室を利用した公認心理師との面談だけでなく、相談を希望する学生に、いち早く対応するため、メーリングリストを作成し、相談や問題の早期解決に向け、専門スタッフや、教員、事務職員が連携し対応するだけでなく、情報共有を目的とした相談室会議を毎月1回開催し、対応の標準化を図っている。 その他、看護師が常駐する医務室では、怪我や病気の処置だけでなく、校医による健康相談の実施と、学生のヘルスケアに向け、情報発信を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.teu.ac.jp/koukai/index.html>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310103901
学校名	東京工科大学
設置者名	学校法人 片柳学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		603人	580人	634人
内 訳	第Ⅰ区分	340人	335人	
	第Ⅱ区分	166人	163人	
	第Ⅲ区分	97人	82人	
家計急変による支援対象者（年間）				18人
合計（年間）				652人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	13人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	26人		
計	39人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	62人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	62人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。